2026 年度

授　業　概　要



田原福祉グローバル専門学校

Tahara Global College of Welfare

教 育 課 程 表

領域	教育内容	必修選択の別	授 業 科 目	授業形態	1年		2年		合計	実務経験者による教育の有無と種類		担当教員
					前 期 授業時数	後 期 授業時数	前 期 授業時数	後 期 授業時数	(単位数)			
人間と社会	人間の尊厳と自立	必修	人間の尊厳と自立	講義演習	30				30(2)	○	その他	石川　祐子
	人間関係とコミュニケーション	必修	人間関係とコミュニケーション	講義演習	30	30			60(4)	○	介護	朽木　倫子
	社会の理解	必修	社会の理解A	講義演習	30				30(2)	○	介護	山森　達也
			社会の理解B	講義演習		30			30(2)	○	介護	山森　達也
			社会の理解C	講義演習			30		30(2)	○	介護	近藤　博行
	人間と社会に関する選択科目	必修	田原学	講義演習		20			20(1)			天野　敏規
		必修	栄養調理	講義演習	30				30(2)	○	その他	山田　まなみ、鈴木　文恵
		必修	レクリエーション活動支援	講義演習	20				20(1)	○	介護	上村　育代
介護	介護の基本	必修	介護の基本Ⅰ	講義演習	60				60(4)	○	介護	近藤　博行、中内田　真弓
			介護の基本Ⅱ	講義演習		60			60(4)	○	介護	上村　育代、近藤　博行
			介護の基本Ⅲ	講義演習			60		60(4)	○	介護	白伊　温子
	コミュニケーション技術	必修	コミュニケーション技術A	講義演習	30				30(2)	○	介護	青木　幸恵
			コミュニケーション技術B	講義演習		30			30(2)	○	介護	小久保　知代子、福井　秀和
	生活支援技術	必修	生活支援技術A	講義演習	30	30			60(4)	○	介護	髙橋芳子、近藤博行、上村育代
			生活支援技術B	講義演習	60				60(4)	○	介護	鈴木　明希
			生活支援技術C	講義演習		60			60(4)	○	介護	西野　優子
			生活支援技術D	講義演習			60		60(4)	○	介護	西野　優子
			生活支援技術E	講義演習			30	30	60(4)	○	介護	上村　育代
	介護過程	必修	介護過程Ⅰ	講義演習	30				30(2)	○	介護	鵜飼　孝義
			介護過程Ⅱ	講義演習		30			30(2)	○	介護	鵜飼　孝義
			介護過程Ⅲ	講義演習			30	30	60(4)	○	介護	上村　育代、杉山　昌克
			介護過程Ⅳ	講義演習				30	30(2)	○	介護	近藤　博行
	介護総合演習	必修	介護総合演習Ⅰ	講義演習	30				30(2)	○	介護	近藤　博行
			介護総合演習Ⅱ	講義演習		30			30(2)	○	介護	杉山　昌克
			介護総合演習Ⅲ	講義演習			30		30(2)	○	介護	杉山　昌克、上村　育代
			介護総合演習Ⅳ	講義演習				30	30(2)	○	介護	杉山　昌克、上村　育代
	介護実習	必修	介護実習Ⅰ－1	実習	36				36(1)	○	介護	近藤博行(上村育代、杉山昌克)
			介護実習Ⅰ－2	実習		80			80(2)	○	介護	杉山昌克(上村育代、近藤博行)
			介護実習Ⅰ－3	実習			174		174(4)	○	介護	上村育代(近藤博行、杉山昌克)
			介護実習Ⅱ	実習				160	160(4)	○	介護	杉山昌克(近藤博行、上村育代)
こころとからだのしくみ	発達と老化の理解	必修	発達と老化の理解Ⅰ	講義演習	30				30(2)	○	医療	石井　弘恵
			発達と老化の理解Ⅱ	講義演習		30			30(2)	○	医療	北山　周、杉山　昌克
	認知症の理解	必修	認知症の理解Ⅰ	講義演習		30			30(2)	○	介護	近藤　博行
			認知症の理解Ⅱ	講義演習			30		30(2)	○	介護	上村　育代、杉山　昌克
	障害の理解	必修	障害の理解Ⅰ	講義演習		30			30(2)	○	介護	上村　育代
			障害の理解Ⅱ	講義演習			30		30(2)	○	介護	鎌田　博幸
	こころとからだのしくみ	必修	こころとからだのしくみⅠ	講義演習	30				30(2)	○	医療	杉山　昌克
			こころとからだのしくみⅡ	講義演習	30	30			60(4)	○	医療	杉山　昌克、伊藤　めぐみ
			こころとからだのしくみⅢ	講義演習			30		30(2)	○	医療	石井　弘恵
医療的ケア		必修	医療的ケアⅠ	講義演習			36	36	72(4)	○	医療	杉山　昌克、石井　弘恵
			医療的ケアⅡ	演習				52	52(3)	○	医療	杉山　昌克、石井　弘恵
福祉文化活動		選択必修	茶道	演習	30	30	30	30	120(8)	○	その他	梶原　純子
			クラフトバンド手芸							○	その他	北原　初代、山本　明美
			陶芸							○	その他	荒川　泰宏
			園芸									休講
			書道							○	その他	前田　和宏
			音楽療法							○	その他	池田　信子
計					536	550	570	398	2,054(116)	時数	2,034	
学年合計					1,086(67)		968(49)		2,054(116)			

(注) 各学年において、選択必修科目である福祉文化活動の中から 60 時間履修するものとする。

目　　次

人間と社会

人間の尊厳と自立 1
人間関係とコミュニケーション 2
社会の理解A 4
社会の理解B 5
社会の理解C 6
田原学 7
栄養調理 8
レクリエーション活動支援 9

介護

介護の基本I 10
介護の基本II 12
介護の基本III 14
コミュニケーション技術A 16
コミュニケーション技術B 17
生活支援技術A 18
生活支援技術B 20
生活支援技術C 22
生活支援技術D 24
生活支援技術E 26
介護過程I 28
介護過程II 29
介護過程III 30
介護過程IV 32
介護総合演習I 33
介護総合演習II 34
介護総合演習III 35
介護総合演習IV 36
介護実習I－１ 37
介護実習I－２ 38
介護実習I―３ 39
介護実習II 41

こころとからだのしくみ

発達と老化の理解I....42
発達と老化の理解II....43
認知症の理解I....44
認知症の理解II....45
障害の理解I....46
障害の理解II....47
こころとからだのしくみI....48
こころとからだのしくみII....49
こころとからだのしくみIII....51

医療的ケア

医療的ケアI....52
医療的ケアII....54

福祉文化活動

茶道....55
クラフトバンド手芸....56
陶芸....57
書道....58
音楽療法....59

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 人間の尊厳と自立	授業の種類 講義・演習	授業担当者 石川　祐子

授業の回数 １５回	時間数(単位数) ３０時間（２）	配当学年・時期 １年前期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
・「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解できる学習とする。

[授業全体の内容の概要]
・介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を深め、人間の尊厳と人権・福祉理念について学ぶ。福祉理念の歴史的変遷から人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。本人主体の観点からは、自立の概念や自立生活の理解を通してその生活を支える必要性について学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・人間の理解を深め、自己と他者、自己と社会、社会と国民との関係から、人間の尊重と尊厳を守ることの重要性を説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　オリエンテーション、人間の尊厳と利用者主体
2　人権思想の潮流とその具現化
3　人権や尊厳に関する日本の諸規定
4　人権・福祉理念の変遷（１）
5　人権・福祉理念の変遷（２）
6　人権尊重と権利擁護
7　人権に関わる事例検討（１）
8　人権に関わる事例検討（２）
9　自立の概念の多様性
10　自立とは
11　自立と自立支援
12　尊厳の保持と自立・自立支援の関係性
13　尊厳に関わる事例検討
14　利用者の自立支援について考える
15　人間の尊厳と自立をどのように考えるか、まとめのレポートと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１「人間の理解」（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出、筆記試験の結果等を総合して評価する（６０点以上で履修認定）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 人間関係とコミュニケーション	授業の種類 講義・演習	授業担当者 朽木　倫子

授業の回数 ３０回	時間数(単位数) ６０時間（４）	配当学年・時期 １年通年	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
・対人援助に必要な人間の関係性を理解し、人間関係の形成とコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。
・介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う。

[授業全体の内容の概要]
・自己理解、他者理解をもとに、対人関係とコミュニケーションについて理解する。
・ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能が説明できる。
・組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本が説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数
1　オリエンテーション(本科目のねらいと概要、授業の進め方等)
2　人間と人間関係(1)人間らしさのはじまり
3　人間と人間関係(2)自分と他者の理解
4　人間と人間関係(3)発達心理学からみた人間関係
5　人間と人間関係(4)社会心理学からみた人間関係
6　人間と人間関係(5)人間関係とストレス
7　対人関係におけるコミュニケーション(1)コミュニケーションの概念・基本構造
8　対人関係におけるコミュニケーション(2)コミュニケーションの手段
9　対人援助関係とコミュニケーション(1)対人援助の基本となる人間関係とコミュニケーション
10　対人援助関係とコミュニケーション(2)対人援助における基本的態度
11　対人援助関係とコミュニケーション(3)援助的人間関係の形成とバイステックの7つの原則
12　組織におけるコミュニケーション(1)組織の条件とコミュニケーションの特徴
13　組織におけるコミュニケーション(2)組織における情報の流れ
14　組織におけるコミュニケーション(3)組織において求められるコミュニケーション
15　前半の振り返り、まとめの試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１ 「人間の理解」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出、筆記試験の結果等を総合して評価する （60点以上で単位認定）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 人間関係とコミュニケーション	授業の種類 講義・演習	授業担当者 朽木　倫子

授業の回数 ３０回	時間数(単位数) ６０時間（４）	配当学年・時期 １年通年	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
・対人援助に必要な人間の関係性を理解し、人間関係の形成とコミュニケーションの基礎的な知識を習得する。
・介護の質を高めるために必要なチームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チーム働くための能力を養う。
[授業全体の内容の概要]
・自己理解、他者理解をもとに、対人関係とコミュニケーションについて理解する。
・ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能が説明できる。
・組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ
・フォロワーシップ等、チーム運営の基本が説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数
16　チームマネジメントの意義
17　介護現場におけるチームマネジメント
18　介護実践における取り組み
19　ケアの展開とチーム
20　チーム力を最大化するマネジメント
21　リーダーシップとフォロワーシップ
22　介護福祉職のキャリアデザイン
23　キャリア支援と開発
24　自己研鑽に必要な姿勢
25　スーパービジョンの機能
26　組織の理念
27　組織の構造
28　組織の機能と役割
29　組織の管理
30　後半の振り返り、まとめの試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１ 「人間の理解」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出、筆記試験の結果等を総合して評価する （60点以上で単位認定）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解Ａ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 山森　達也

授業の回数 １５回	時間数(単位数) ３０時間（２）	配当学年・時期 １年前期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
・個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会のしくみの関係性を体系的に捉える学習とする。
・日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。
[授業全体の内容の概要]
・生活の基本機能とライフサイクルの変化および家族、社会、組織、地域社会の概念を理解する。その上で地域社会における生活支援について学ぶ。
・社会保障制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会のかかわりや自助・互助・共助・公助の展開について説明できる。
・社会保障制度の基本的な考え方としくみ、社会保障の現状と課題について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数
1　「人間」、「生活」をとらえる
2　生活の基本性能
3　ライフスタイルの変化
4　家族の機能と役割
5　社会・組織の機能と役割　地域・地域社会　地域社会における生活支援
6　社会保障の基本的な考え方
7　日本の社会保障制度の発達(1)
8　日本の社会保障制度の発達(2)
9　日本の社会保障制度の発達(3)
10　日本の社会保障制度のしくみ(1)
11　日本の社会保障制度のしくみ(2)
12　日本の社会保障制度のしくみ(3)
13　現代社会と社会保障制度
14　全体の振り返り、まとめ
15　まとめの試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座２ 「社会の理解」（第3版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出、筆記試験の結果等を総合して評価する （60点以上で履修認定）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解Ｂ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 山森　達也

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	１年後期	必修

[授業の目的・ねらい]
・高齢者福祉の制度、施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する場とする。
・対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。
[授業全体の内容の概要]
・高齢者福祉と介護保険制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。
・地域共生社会の実現に向けた制度や施策にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容、高齢者福祉の現状と課題について説明できる。
・地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度や施策について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数
1　高齢者保健福祉に関する歴史
2　日本の高齢化の状況と高齢者保健福祉における課題
3　高齢者保健福祉に関連する法体系
4　介護保険制度創設の背景
5　介護保険制度の基本的理解(1)
6　介護保険制度の基本的理解(2)
7　介護保険制度の基本的理解(3)
8　介護保険制度おける組織、団体の役割
9　介護保険制度の動向
10　地域福祉の発展（1)
11　地域福祉の発展（2)
12　地域共生社会
13　地域包括ケア
14　全体の振り返り、まとめ
15　まとめの試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座２ 「社会の理解」（第3版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出、筆記試験の結果等を総合して評価する （60点以上で履修認定）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解Ｃ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 近藤　博行

授業の回数 １５回	時間数(単位数) ３０時間（２）	配当学年・時期 ２年前期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]

・障害者福祉及び権利擁護等の制度、施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する場とする。

[授業全体の内容の概要]

・障害者福祉と障害者保健福祉制度や他の介護実践に関連する諸制度にどのようなものがあるかを具体的に学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容、障害者福祉の現状と課題について説明できる。

・人間の尊厳と自立にかかわる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関連する制度、施策の基本的な考え方としくみについて説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

ｺﾏ数

1　オリエンテーション
2　障害者保健福祉の動向
3　障害者の定義
4　障害者保健福祉に関する制度
5　障害者総合支援制度創設の目的
6　障害者総合支援法の基本的理解(１)
7　障害者総合支援法の基本的理解(２)
8　介護保険制度と障害者総合支援制度の比較
9　個人の権利を守る制度
10　保健医療に関する制度
11　貧困対策に関する制度
12　生活困窮者支援に関する制度
13　地域生活を支援する制度
14　事例を通しての制度の理解
15　全体の振り返り、まとめの試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座２「社会の理解」（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出、筆記試験の結果等を総合して評価する（６０点以上で履修認定）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 田原学	授業の種類 講義・演習	授業担当者 天野　敏規 市役所職員

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１０回	２０時間（１）	１年後期	必修

[授業の目的・ねらい]
・田原の風土歴史を学び　風土とそこにくらす人たちの気質を知る
[授業全体の内容の概要]
・講義と体験、現地見学、グループワークを行う
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・授業で学んだ知識・経験を、実際の福祉の現場でのプラスアルファとして活かせるようにする。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　オリエンテーション、田原の祭りと地域の祭り
2　田原の自然
3　田原市の概要（１）　田原市が目指すまちづくり
4　田原市の概要（２）　田原市の観光　＊校外学習（まつり会館ほか）
5　渡辺崋山と田原の偉人（１）　＊校外学習（田原市博物館）
6　糟谷磯丸と田原の偉人（２）
7　田原の歴史とくらし（１）大むかしのくらし　＊校外学習
（吉胡貝塚資料館）
8　田原の歴史とくらし（２）方言とむかしのくらし
9　田原の歴史とくらし（３）田原の歴史と文化財
10　まとめとレポート作成

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・必要に応じてプリント使用	レポート提出

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 栄養調理	授業の種類 講義・演習	授業担当者 山田　まなみ 鈴木　文恵

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	１年前期	必修

[授業の目的・ねらい]
・日本の文化や行事食を理解し、高齢者のより豊かな食生活を援助できるようにする。
[授業全体の内容の概要]
・高齢者や障害者の心身の特性に応じた食生活のあり方を学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・高齢者や障害者の食生活分野の生活援助ができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数
1　食生活と栄養調理
2　調理実習オリエンテーション
3　調理実習(1)
4　調理実習(2)
5　調理実習(3)
6　調理実習(4)
7　調理実習(5)
8　調理実習(6)
9　高齢者の食事と栄養
10　調理実習(7)
11　摂食嚥下のメカニズム
12　調理実習(8)
13　ライフステージと栄養
14　食品衛生学（食中毒の予防）
15　まとめの試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・必要に応じて資料を配布する	出席状況、演習への取り組み状況、レポート提出、筆記試験等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） レクリエーション活動支援	授業の種類 講義・演習	授業担当者 上村　育代

授業の回数 １０回	時間数(単位数) ２０時間（１）	配当学年・時期 １年前期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
・レクリエーションの社会的意義・課題について理解する。
・ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ支援者としての役割とﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ支援の考え方・姿勢を理解する。
・支援の対象者、領域の状況、課題について理解する。
・レクリエーション計画の作成能力の向上を図る。
・レクリエーション・インストラクター資格を取得する。

[授業全体の内容の概要]
・レクリエーション活動の楽しさ、心地よさを活かす支援の基礎を理解し、地域、学校、職場、福祉の分野でのレクリエーションの必要性を学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・レクリエーションの意義、支援者の役割が理解できる。
・レクリエーション計画の作成能力や活動の実践的能力が修得できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　レクリエーションおよびレクリエーション・インストラクターとは
2　楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気
3　対象者の心の元気づくりの課題、および心の元気と地域のきずな
4　信頼関係づくりの理論
5　良好な集団づくりの理論
6　自主的・主体的に楽しむ力を育む理論
7　レクリエーション支援のリスクマネジメント①
8　レクリエーション支援のリスクマネジメント②
9　レクリエーション支援のプログラムの立案①
10　レクリエーション支援のプログラムの立案②

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
・楽しさをとおした心の元気づくり（日本レクリエーション協会） ・レクリエーション支援の方法・楽しさをとおした心の元気づくり補助教材(日本レクリエーション協会) ・一人ひとりが輝くレクリエーション・プログラム（中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出等を総合して評価する

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅰ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 中内田　真弓 近藤　博行

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４）	１年前期	必修

[授業の目的・ねらい]
・介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての能力と態度を養う学習とする。
[授業全体の内容の概要]
・介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況について学び、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念について理解する。
・地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における介護福祉士の役割と機能について学ぶ。
・個々の状態に応じて環境整備や介護予防、リハビリテーション等が実施されることを理解し、自立に向けた介護の重要性について学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念について説明できる。
・様々な場面における介護福祉士の役割と機能について説明できる。
・対象となる人の個々の状態に応じて自立に向けた介護の方法について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　オリエンテーション
2　介護の成り立ち
3　介護福祉を取り巻く状況
4　介護福祉の歴史（１）
5　介護福祉の歴史（２）
6　介護福祉の理念
7　尊厳を支える介護
8　自立を支える介護
9　自立を支える自己決定権
10　社会福祉士および介護福祉士法
11　介護福祉士の義務規定
12　関連する諸規定
13　介護福祉士の活動の場と役割（１）
14　介護福祉士の活動の場と役割（２）
15　前半の振り返り、まとめの試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座３ 「介護の基本Ⅰ」（第3版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出、筆記試験の結果等を総合して評価する （60点以上で履修認定）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅰ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 中内田　真弓 近藤　博行

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４）	１年前期	必修

[授業の目的・ねらい]
・介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての能力と態度を養う学習とする。
[授業全体の内容の概要]
・介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況について学び、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念について理解する。
・地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における介護福祉士の役割と機能について学ぶ。
・個々の状態に応じて環境整備や介護予防、リハビリテーション等が実施されることを理解し、自立に向けた介護の重要性について学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念について説明できる。
・様々な場面における介護福祉士の役割と機能について説明できる。
・対象となる人の個々の状態に応じて自立に向けた介護の方法について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
16　養成教育の始まり
17　専門職に求められる役割の拡大
18　チームリーダーとしての期待
19　日本介護福祉士会
20　その他の介護福祉士を支える団体
21　自立支援の考え方
22　生活意欲と活動
23　介護におけるＩＣＦの考え方
24　自立支援とリハビリテーション
25　リハビリテーションの理念
26　リハビリテーションの実際
27　介護予防とは
28　介護予防の実際
29　自立支援と介護予防
30　後半の振り返り、まとめの試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座３ 「介護の基本Ⅰ」（第3版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出、筆記試験の結果等を総合して評価する （60点以上で履修認定）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅱ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 上村　育代 中内田　真弓

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４）	１年後期	必修

[授業の目的・ねらい]
・介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての能力と態度を養う学習とする。
[授業全体の内容の概要]
・介護福祉士としての専門性と倫理について理解するとともに、介護を必要とする人の生活の多様性や社会との関わりについて学ぶ。
・介護を必要とする人の生活を支援するしくみ、多職種協働による介護を実践するために、他の職種の専門性や役割と機能について学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・介護福祉士の倫理について説明できる。
・介護を必要とする人の理解を通して、生活の個別性に対応できる。
・介護を必要とする人の生活を支えるしくみについて説明できる。
・協働する多職種の役割と機能について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数		コマ数	
1	生活とは何か	9	高齢者のためのフォーマルサービス(2)
2	生活の要素	10	高齢者のためのフォーマルサービス(3)
3	暮らしを理解するということ	11	障害者のためのフォーマルサービス(1)
4	高齢者の暮らし	12	障害者のためのフォーマルサービス(2)
5	障害者の暮らし	13	インフォーマルサービスとは
6	「その人らしさ」とは何か	14	インフォーマルサービスの種類
7	「その人らしさ」と生活ニーズ	15	前半の振り返り、まとめの試験
8	高齢者のためのフォーマルサービス(1)		

[使用テキスト・参考文献]
・最新介護福祉士養成講座３
「介護の基本Ⅰ」（第3版）
（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）
・最新介護福祉士養成講座４
「介護の基本Ⅱ」（第3版）
（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）

[履修認定の方法及び基準]
出席状況、受講態度、レポート提出、筆記試験の結果等を総合して評価する
（60点以上で履修認定）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅱ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 上村　育代 中内田　真弓

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４）	１年後期	必修

[授業の目的・ねらい]
・介護福祉士に求められる役割と機能を理解し、専門職としての能力と態度を養う学習とする。
[授業全体の内容の概要]
・介護福祉士としての専門性と倫理について理解するとともに、介護を必要とする人の生活の多様性や社会との関わりについて学ぶ。
・介護を必要とする人の生活を支援するしくみ、多職種協働による介護を実践するために、他の職種の専門性や役割と機能について学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・介護福祉士の倫理について説明できる。
・介護を必要とする人の理解を通して、生活の個別性に対応できる。
・介護を必要とする人の生活を支えるしくみについて説明できる。
・協働する多職種の役割と機能について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数		コマ数	
16	介護福祉士の倫理	22	多職種協働とコミュニケーション能力
17	日本介護福祉士会倫理綱領	23	保健・医療・福祉職の役割と機能(1)
18	多職種連携・協働とは	24	保健・医療・福祉職の役割と機能(2)
19	多職種連携・協働の必要性	25	保健・医療・福祉職の役割と機能(3)
20	多職種連携・協働の効果	26	保健・医療・福祉職の役割と機能(4)
21	多職種協働のための介護技術	27	保健・医療・福祉職の役割と機能(5)
		28	地域での連携と協働
		29	多職種連携の実際
		30	後半の振り返り、まとめの試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座３ 「介護の基本Ⅰ」（第3版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・最新介護福祉士養成講座４ 「介護の基本Ⅱ」（第3版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出、筆記試験の結果等を総合して評価する （60点以上で履修認定）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅲ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 白伊　温子

授業の回数 ３０回	時間数(単位数) ６０時間（４）	配当学年・時期 ２年前期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。
[授業全体の内容の概要]
・介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応について学ぶ。
・介護従事者の安全と介護従事者自身が心身ともに健康に介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・介護におけるリスクマネジメントの重要性を理解し、そのために必要な事故防止対策や安全対策について説明できる。
・介護従事者自身を守る労働環境の整備や心身の健康管理の方法について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　オリエンテーション
2　介護における安全の確保
3　介護の場におけるセーフティマネジメント
4　安全を重視する組織風土
5　リスクマネジメントとは
6　福祉サービスにおける安心と安全
7　事故防止のための対策
8　身体拘束の廃止について
9　感染症の基礎知識(1)
10　感染症の基礎知識(2)
11　標準予防策の重要性
12　施設内の清潔保持
13　個別の感染症対策
14　薬物療法に関する基礎知識
15　前半の振り返り、まとめの試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座４ 「介護の基本Ⅱ」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出、筆記試験の結果等を総合して評価する （60点以上で単位認定）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅲ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 白伊　温子

授業の回数 ３０回	時間数(単位数) ６０時間（４）	配当学年・時期 ２年前期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
・介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。
[授業全体の内容の概要]
・介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応について学ぶ。
・介護従事者の安全と介護従事者自身が心身ともに健康に介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・介護におけるリスクマネジメントの重要性を理解し、そのために必要な事故防止対策や安全対策について説明できる。
・介護従事者自身を守る労働環境の整備や心身の健康管理の方法について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
16　健康管理の意義と目的
17　労働者の健康や生活を守る制度(1)
18　労働者の健康や生活を守る制度(2)
19　介護労働と健康問題
20　健康に働くための健康管理
21　こころの健康管理
22　ストレスとは何か
23　ストレスへの対処法
24　こころの病気
25　身体の健康管理
26　腰痛の予防と対策
27　労働環境について学ぶ意義
28　介護従事者の労働災害
29　労働環境の整備とけがの予防
30　後半の振り返り、まとめの試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座４ 「介護の基本Ⅱ」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出、筆記試験の結果等を総合して評価する （60点以上で単位認定）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション技術Ａ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 青木　幸恵

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	１年前期	必修

[授業の目的・ねらい]
・介護を必要とする者の理解や援助関係、援助的コミュニケーションについて理解する。
[授業全体の内容の概要]
・介護におけるコミュニケーション技術の基本と利用者・家族とのコミュニケーションの実際を学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・介護現場で適切なコミュニケーション技術が理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　オリエンテーション、介護におけるコミュニケーションとは
2　介護におけるコミュニケーションの対象
3　援助関係とコミュニケーション
4　コミュニケーション態度に関する基本技術①
5　コミュニケーション態度に関する基本技術②
6　言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本
7　目的別のコミュニケーション技術①
8　目的別のコミュニケーション技術②
9　集団におけるコミュニケーション技術（1）①
10　集団におけるコミュニケーション技術（1）②
11　集団におけるコミュニケーション技術（2）①
12　集団におけるコミュニケーション技術（2）②
13　家族とのコミュニケーション
14　ふりかえり
15　まとめの試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座５ 「コミュニケーション技術」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出、筆記試験の結果等を総合して評価する （60点以上で履修認定）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） コミュニケーション技術Ｂ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 小久保　知代子 福井　秀和

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	１年後期	必修

[授業の目的・ねらい]
・利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につける。
[授業全体の内容の概要]
・利用者・状況に応じたコミュニケーションの実際と介護におけるチームコミュニケーションを学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・介護現場で適切なコミュニケーション技術が実践できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数
1　利用者の特性に応じたコミュニケーション（１）障害の理解　①障害とは
2　利用者の特性に応じたコミュニケーション（１）障害の理解　②障害の原因
3　利用者の特性に応じたコミュニケーション　（２）コミュニケーション障害のある利用者への対応　①対応を考えるための視点
4　利用者の特性に応じたコミュニケーション　（２）コミュニケーション障害のある利用者への対応　②対応の基本
5　利用者の特性に応じたコミュニケーション　（３）利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際　コミュニケーション技術Ⅰ
6　利用者の特性に応じたコミュニケーション　（３）利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際　コミュニケーション技術Ⅱ
7　利用者の特性に応じたコミュニケーション　（３）利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際　コミュニケーション技術Ⅲ
8　介護におけるチームのコミュニケーション　（１）チームのコミュニケーション
9　介護におけるチームのコミュニケーション　（２）報告・連絡・相談
10　介護におけるチームのコミュニケーション　（３）記録の意義・目的
11　介護におけるチームのコミュニケーション　（４）記録の種類・方法・留意点
12　介護におけるチームのコミュニケーション　（５）会議の意義・目的
13　介護におけるチームのコミュニケーション　（６）事例検討に関する技術
14　介護におけるコミュニケーションとは（個人情報の保護と活用）
15　まとめの試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座５「コミュニケーション技術」（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況・レポート提出・筆記試験等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ａ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 高橋　芳子　近藤　博行 上村　育代

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４）	１年前期（通年）	必修

[授業の目的･ねらい]
･尊厳の保持、自立支援、生活の豊かさの視点に立った適切な介護技術について学習する。
[授業全体の内容の概要]
･生活支援の理解、自立に向けた家事の介護、自立に向けた住居環境の整備について学習する。
･レクリエーション支援の方法やレクリエーション活動の習得について学習する。
[授業修了時の達成課題(到達目標)]
･適切な介護技術を用いて安全に援助できる知識や技術、態度について習得する。
･自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法を習得する。
･レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　オリエンテーション、生活支援の基本的な考え方
2　生活支援と介護過程
3　自立に向けた家事の介護（１）洗濯、そうじ・ごみ捨て
4　自立に向けた家事の介護（２）裁縫、衣類・寝具の管理
5　生活支援における福祉用具の重要性
6　福祉用具の種類・適切な福祉用具を選ぶための視点（１）
7　福祉用具の種類・適切な福祉用具を選ぶための視点（２）
8　自立に向けた居住環境の整備（１）
9　自立に向けた居住環境の整備（２）
10　自立に向けた居住環境の整備（３）
11　自立に向けた家事の介護（３）買い物、家計の管理
12　前半の振り返りとまとめ、小テスト
13　レクリエーション支援の方法（１）レクリエーション活動の展開方法①
14　レクリエーション支援の方法（２）レクリエーション活動の展開方法②
15　レクリエーション支援の方法（３）レクリエーション活動の展開方法③

[使用テキスト・参考文献①]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座６「生活支援技術Ⅰ」（第3版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護福祉用語事典(医学評論社)	出席状況、レポート提出、授業への取り組み姿勢、筆記試験等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ａ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 高橋　芳子　近藤　博行 上村　育代

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４）	１年後期（通年）	必修

[授業の目的･ねらい]
･尊厳の保持、自立支援、生活の豊かさの視点に立った適切な介護技術について学習する。
[授業全体の内容の概要]
･生活支援の理解、自立に向けた家事の介護、自立に向けた住居環境の整備について学習する。
･レクリエーション支援の方法やレクリエーション活動の習得について学習する。
[授業修了時の達成課題(到達目標)]
･適切な介護技術を用いて安全に援助できる知識や技術、態度について習得する。
･自主的、主体的に楽しむ力を育むレクリエーション活動の展開方法を習得する。
･レクリエーション支援のために活用しやすいプログラムとレクリエーション活動を習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
16　レクリエーション支援の方法（４）レクリエーション活動の展開方法④
17　レクリエーション支援の方法（５）レクリエーション活動の展開方法⑤
18　レクリエーション支援の方法（６）レクリエーション活動の展開方法⑥
19　レクリエーション支援の方法（７）レクリエーション活動の展開方法⑦
20　レクリエーション活動の習得（１）レクリエーション活動の体験①
21　レクリエーション活動の習得（２）レクリエーション活動の体験②
22　レクリエーション活動の習得（３）レクリエーション活動の体験③
23　レクリエーション活動の習得（４）レクリエーション活動の体験④
24　レクリエーション活動の習得（５）レクリエーション活動の体験⑤
25　レクリエーション活動の習得（６）レクリエーション活動の体験⑥
26　レクリエーション活動の習得（７）レクリエーション活動の体験⑦
27　レクリエーション活動の習得（８）レクリエーション活動の体験⑧
28　レクリエーション活動の習得（９）レクリエーション活動の体験⑨
29　まとめ
30　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献②]	[履修認定の方法及び基準]
･楽しさをとおした心の元気づくり（日本レクリエーション協会） ･レクリエーション支援の方法(日本レクリエーション協会) ･一人ひとりが輝くレクリエーションプログラム(中央法規)	出席状況、レポート提出、授業への取り組み姿勢、筆記試験等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ｂ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 鈴木　明希

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４）	１年前期	必修

[授業の目的・ねらい]
・尊厳の保持・自立支援の視点に立った適切な介護技術について学習する。
[授業全体の内容の概要]
・自立に向けた身支度の介護、自立に向けた移動の介護について学習する。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識・態度について習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　自立に向けた移動の介護（１）移動の意義と目的
2　自立に向けた移動と介護（２）移動に関するICFの視点に基づくアセスメント
3　自立に向けた移動と介護（３）安全で安心して動けることを支える介護
4　自立に向けた移動と介護（４）移動・移乗の介護に関する他職種の役割と協働
5　安全で的確な居住環境の介助の技法　（１）ボディメカニクス・ベッドメーキング
6　安全で的確な移動・移乗の介助の技法（１）体位変換（対面・背面）
7　安全で的確な移動・移乗の介助の技法（２）起き上がり・立位
8　安全で的確な移動・移乗の介助の技法（３）安楽な姿勢・体位の保持
9　安全で的確な移動・移乗の介助の技法（４）車いすの介助（座面移動）
10　安全で的確な移動・移乗の介助の技法（５）車いすの介助（移動）
11　安全で的確な移動・移乗の介助の技法（６）歩行の介助
12　安全で的確な移動・移乗の介助の技法（７）移動・移乗のための道具・用具
13　利用者の状態に応じた移動･移乗の介護（1）感覚・運動機能が低下している人の介助
14　利用者の状態に応じた移動・移乗の介護（2）認知・知覚機能が低下している人の介助
15　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座６「生活支援技術Ⅰ」（第3版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・最新介護福祉士養成講座７「生活支援技術Ⅱ」（第3版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、レポート提出、授業への取り組み 姿勢、筆記試験等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ｂ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 鈴木　明希

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４）	１年前期	必修

[授業の目的・ねらい]
・尊厳の保持・自立支援の視点に立った適切な介護技術について学習する。
[授業全体の内容の概要]
・自立に向けた身支度の介護、自立に向けた移動の介護について学習する。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識・態度について習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
16　自立に向けた食事の介護　（１）食事の意義と目的
17　自立に向けた食事の介護　（２）食事に関するICFの視点に基づくアセスメント
18　自立に向けた食事の介護　（３）生活リズムをつくる食事、脱水の防止
19　自立に向けた食事の介護　（４）利用者の状態に応じた食事の介助
20　自立に向けた食事の介護　（５）食事の介護に関する他職種の役割と協働
21　安全で的確な食事介助の技法　（１）「おいしく食べる」、楽しみ、嗜好を考慮した支援
22　安全で的確な食事介助の技法　（２）嚥下の構造、誤嚥・窒息の防止
23　安全で的確な食事介助の技法　（３）食事の環境、食事前の準備・嚥下体操
24　安全で的確な食事介助の技法　（４）安全に食べるための姿勢
25　安全で的確な食事介助の技法　（５）基本的な食事介助の方法
26　安全で的確な食事介助の技法　（６)自分で食べるための食器や食事用の自助具
27　安全で的確な食事介助の技法　（７）食事後の支援、口腔内の観察
28　利用者の状態に応じた食事の介護(１)感覚・運動機能が低下している人の介助
29　利用者の状態に応じた食事の介護(２)認知・知覚機能が低下している人の介助
30　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座６「生活支援技術Ⅰ」（第3版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・最新介護福祉士養成講座７「生活支援技術Ⅱ」（第3版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、レポート提出、授業への取り組み姿勢、筆記試験等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ｃ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 西野　優子

授業の回数 ３０回	時間数(単位数) ６０時間（４）	配当学年・時期 １年後期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
・尊厳の保持、自立支援、生活の豊かさの視点に立った適切な介護技術について学習する。
[授業全体の内容の概要]
・自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた排泄の介護について学習する。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・適切な介護技術を用いて安全に援助できる知識や技術・態度について習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数
1　自立に向けた身じたくの介護（１）身じたくの意義と目的
2　自立に向けた身じたくの介護（２）身じたくに関するICFの視点に基づくｱｾｽﾒﾝﾄ
3　自立に向けた身じたくの介護（３）生活習慣と装いの楽しみを支える介護の工夫
4　自立に向けた身じたくの介護（４）整容行動、衣生活を調整する能力のｱｾｽﾒﾝﾄ
5　自立に向けた身じたくの介護（５）利用者の状態に応じた介助の視点
6　自立に向けた身じたくの介護（６）身じたくの介護に関する多職種の役割と協働
7　自立に向けた身じたくの介護（７）単元テスト
8　自立に向けた身じたくの介助の技法（１）整容の技法①爪・点眼・化粧
9　自立に向けた身じたくの介助の技法（２）整容の技法②洗面、整髪
10　自立に向けた身じたくの介助の技法（３）整容の技法③ひげの手入れ
11　自立に向けた身じたくの介助の技法（４）口腔の清潔①口腔清掃（歯磨き）
12　自立に向けた身じたくの介助の技法（５）口腔の清潔②義歯の清掃
13　自立に向けた身じたくの介助の技法（６）衣服の着脱②上着の着脱（前開き）
14　自立に向けた身じたくの介助の技法（７）衣服の着脱③ズボンの着脱、ゆかたの着脱
15　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座７（第3版）「生活支援技術Ⅱ」（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護福祉用語事典(医学評論社)	出席状況、レポート提出、授業への取り組み 姿勢、筆記試験等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ｃ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 西野　優子

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４）	１年後期	必修

[授業の目的・ねらい]
・尊厳の保持、自立支援、生活の豊かさの視点に立った適切な介護技術について学習する。
[授業全体の内容の概要]
・自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた排泄の介護について学習する。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・適切な介護技術を用いて安全に援助できる知識や技術・態度について習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数
16　自立に向けた排泄の介護（１）排泄の意義・目的
17　自立に向けた排泄の介護（２）排泄に関するICFの視点に基づくアセスメント
18　自立に向けた排泄の介護（３）気持ちの良い排泄を支える介護①
19　自立に向けた排泄の介護（４）気持ちの良い排泄を支える介護②
20　自立に向けた排泄の介護（５）自然排尿、排便を困難にするおもな障害について
21　自立に向けた排泄の介護（６）排泄に関するさまざまな介助
22　自立に向けた排泄の介護（７）排泄の介護に関する多職種の役割と協働
23　安全で的確な排泄介助の技法（１）トイレ介助・誘導
24　安全で的確な排泄介助の技法（２）床上排泄（採尿器、差込便器）
25　安全で的確な排泄介助の技法（３）ポータブルトイレ
26　安全で的確な排泄介助の技法（４）おむつの介助①
27　安全で的確な排泄介助の技法（５）おむつの介助②
28　安全で的確な排泄介助の技法（６）おむつの介助③
29　安全で的確な排泄介助の技法（７）便秘・下痢の予防、失禁時の介助
30　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座７（第3版）「生活支援技術Ⅱ」（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護福祉用語事典(医学評論社)	出席状況、レポート提出、授業への取り組み 姿勢、筆記試験等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ｄ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 西野　優子

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４）	２年前期	必修

[授業の目的・ねらい]
・尊厳の保持、自立支援、生活の豊かさの視点に立った適切な介護技術について学習する。
[授業全体の内容の概要]
・自立に向けた入浴・清潔保持の介護、休息・睡眠の介護、人生の最終段階における介護について学習する。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・適切な介護技術を用いて安全に援助できる知識や技術・態度について習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数
1　自立に向けた入浴・清潔保持の介護（１）オリエンテーション～入浴とは
2　自立に向けた入浴・清潔保持の介護（２）入浴の意義と目的
3　自立に向けた入浴・清潔保持の介護（３）入浴・清潔保持に関するアセスメント
4　自立に向けた入浴・清潔保持の介護（４）ICFの視点に基づくアセスメント
5　自立に向けた入浴・清潔保持の介護（５）爽快感・安楽を支える介護
6　自立に向けた入浴・清潔保持の介護（６）安全とプライバシーに配慮した入浴介護
7　自立に向けた入浴・清潔保持の介護（７）入浴・清潔保持に関する多職種の役割と協働
8　安全で的確な入浴介助の技法（１）手浴（床上）
9　安全で的確な入浴介助の技法（２）足浴（座位）
10　安全で的確な入浴介助の技法（３）全身清拭・足浴（床上）
11　安全で的確な入浴介助の技法（４）床上洗髪・ドライシャンプー
12　安全で的確な入浴介助の技法（５）シャワー浴・洗身介助の方法①
13　安全で的確な入浴介助の技法（６）シャワー浴・洗身介助の方法②
14　安全で的確な入浴介助の技法（７）在宅浴①
15　安全で的確な入浴介助の技法（８）在宅浴②

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座７「生活支援技術Ⅱ」（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護福祉用語事典(医学評論社)	出席状況、レポート提出、授業への取り組み 姿勢、筆記試験等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ｄ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 西野　優子

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４）	２年前期	必修

[授業の目的・ねらい]
・尊厳の保持、自立支援、生活の豊かさの視点に立った適切な介護技術について学習する。
[授業全体の内容の概要]
・自立に向けた入浴・清潔保持の介護、休息・睡眠の介護、人生の最終段階における介護について学習する。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・適切な介護技術を用いて安全に援助できる知識や技術・態度について習得する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数
16　安全で的確な入浴介助の技法（９）特殊浴槽の操作と安全①
17　安全で的確な入浴介助の技法（10）特殊浴槽の操作と安全②
18　安全で的確な入浴介助の技法（11）利用者の状態、状況に応じた介護の留意点
19　自立に向けた睡眠の介護（１）休憩、睡眠の意義・目的とアセスメント
20　自立に向けた睡眠の介護（２）睡眠障害について
21　自立に向けた睡眠の介護（３）睡眠障害とその支援
22　自立に向けた睡眠の介護（４）休息、睡眠の介護
23　自立に向けた睡眠の介護（５）多職種連携
24　休息、睡眠環境を整える（１）ベッドメイク
25　人生の最終段階における介護（１）人生の最終段階の意義と介護の役割
26　人生の最終段階における介護（２）ＡＣＰ
27　人生の最終段階における介護（３）人生の最終段階における介護
28　人生の最終段階における介護（４）エンゼルケア、事例
29　睡眠の介護と終末期の介護のまとめ
30　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座７「生活支援技術Ⅱ」（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護福祉用語事典(医学評論社)	出席状況、レポート提出、授業への取り組み 姿勢、筆記試験等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ｅ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 上村　育代

授業の回数 ３０回	時間数(単位数) ６０時間（４）	配当学年・時期 ２年通年	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
・障害の特性を理解し、生活の豊かさや自立支援のための介護の根拠を身につける。
[授業全体の内容の概要]
・精神・知的・感覚器・運動機能・言語等の障害に応じたアセスメントの視点と、生活支援の実際について学習する。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・障害による利用者の状態・状況を理解し、生活支援の留意点について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数
1　障害児・者の生活支援の基本
2　精神障害に応じた介護(1)統合失調症
3　精神障害に応じた介護(2)気分障害
4　知的障害に応じた介護
5　発達障害に応じた介護
6　重症心身障害に応じた介護
7　視覚障害に応じた介護
8　聴覚障害に応じた介護
9　重複障害（盲ろう）に応じた介護
10　高次脳機能障害に応じた介護
11　言語障害に応じた介護(1)発音発声障害
12　言語障害に応じた介護(2)失語症
13　聴覚障害のある人の障害の特性と生活支援の実際（手話）
14　視覚障害のある人の障害の特性と生活支援の実際（点字）
15　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座８ 「生活支援技術Ⅲ」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護福祉用語事典 （医学評論社）	出席状況、課題、授業への取り組み姿勢、筆記試験等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 生活支援技術Ｅ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 上村　育代

授業の回数 ３０回	時間数(単位数) ６０時間（４）	配当学年・時期 ２年通年	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
・障害の特性を理解し、生活の豊かさや自立支援のための介護の根拠を身につける。
[授業全体の内容の概要]
・精神・知的・感覚器・運動機能・言語等の障害に応じたアセスメントの視点と、生活支援の実際について学習する。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・障害による利用者の状態・状況を理解し、生活支援の留意点について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

16　運動機能障害のある人の生活支援の基本
17　脊髄損傷に応じた介護
18　脳血管障害に応じた介護
19　関節リウマチに応じた介護
20　脳性麻痺に応じた介護
21 パーキンソン病に応じた介護
22 内部障害のある人の生活支援の基本
23　心臓機能障害に応じた介護
24　呼吸器機能障害に応じた介護
25　肝臓機能障害に応じた介護
26　腎臓機能障害に応じた介護
27　ＨＩＶによる免疫機能障害に応じた介護
28　膀胱・直腸機能障害に応じた介護
29　小腸機能障害に応じた介護
30　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座８ 「生活支援技術Ⅲ」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護福祉用語事典 （医学評論社）	出席状況、課題、授業への取り組み姿勢、筆記試験等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅰ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 鵜飼　孝義

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	１年前期	必修

[授業の目的・ねらい]
・介護実践における介護過程の意義と目的の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点について理解する学習とする。
[授業全体の内容の概要]
・介護過程の意義と目的について理解する。その上で、介護過程の一連のプロセスについて学ぶ。
・介護過程におけるＩＣＦモデルの活用について学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・介護過程の意義と目的、及び介護過程の一連のプロセスについて説明できる。
・介護過程におけるＩＣＦモデルの活用について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　オリエンテーション、介護過程とは
2　介護過程の意義と目的
3　介護過程の全体像
4　介護過程における事例検討・事例研究の必要性
5　介護過程の理解（1）介護過程の展開
6　介護過程の理解（2）アセスメント（情報収集）①
7　介護過程の理解（2）アセスメント（情報収集）②
8　介護過程の理解（3）アセスメント（情報の解釈・関連づけ・統合化）①
9　介護過程の理解（3）アセスメント（情報の解釈・関連づけ・統合化）②
10　介護過程の理解（4）介護計画の立案①
11　介護過程の理解（4）介護計画の立案②
12　介護過程の理解（5）介護の実施
13　介護過程の理解（6）評価
14　ふりかえり
15　まとめの試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座９ 「介護過程」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出、筆記試験の結果等を総合して評価する （60点以上で履修認定）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅱ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 鵜飼　孝義

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	１年後期	必修

[授業の目的・ねらい]
・介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解する学習とする。
[授業全体の内容の概要]
・介護過程とケアマネジメントの関係性について学ぶ。
・チームアプローチにおける介護福祉士の役割について学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・介護過程とケアマネジメントの関係性について説明できる。
・チームアプローチにおける介護福祉士の役割について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　オリエンテーション
2　介護過程の実践的展開①事例概要の把握
3　介護過程の実践的展開②ICFの視点でアセスメント実践
4　介護過程の実践的展開③ICFの視点でニーズを探る
5　介護過程の実践的展開④施設入所後のケアプラン策定
6　介護過程の実践的展開⑤グループ発表
7　ケアマネジメントの全体像
8　ケアプランと個別援助計画の関係性
9　チームにおける介護福祉士の役割
10　チームアプローチの意義
11　チームアプローチの実際
12　ふりかえり
13　ケーススタディ発表会①
14　ケーススタディ発表会②
15　まとめの試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座９ 「介護過程」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出、筆記試験の結果等を総合して評価する （60点以上で履修認定）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅲ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 上村　育代 杉山　昌克

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４）	２年通年	必修

[授業の目的・ねらい]
・様々な科目で学んだ知識、技術を統合した介護過程の理解を深める。
[授業全体の内容の概要]
・介護過程とは何か理解し、介護計画の立て方、展開過程を学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・介護に関する知識、技術を統合して介護過程を展開できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　介護過程の展開　介護計画とは何か（１）
2　介護過程の展開　介護計画とは何か（２）
3　介護計画立案のポイントと留意点（１）
4　介護計画立案のポイントと留意点（２）
5　介護上の目標の決定における留意点（１）
6　介護上の目標の決定における留意点（２）
7　サービス内容や方法の決定における留意点（１）
8　サービス内容や方法の決定における留意点（２）
9　介護の実践における留意点（１）
10　介護の実践における留意点（２）
11　介護の評価・修正における留意点（１）
12　介護の評価・修正における留意点（２）
13　利用者の特性に応じた介護過程の実践的応用Ⅰ（１）
14　利用者の特性に応じた介護過程の実践的応用Ⅰ（２）
15　利用者の特性に応じた介護過程の実践的応用Ⅱ

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座９「介護過程」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出等を総合的に勘案する（60点以上で合格）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅲ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 上村　育代 杉山　昌克

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４）	２年通年	必修

[授業の目的・ねらい]
・様々な科目で学んだ知識、技術を統合した介護過程の理解を深める。
[授業全体の内容の概要]
・介護過程とは何か理解し、介護計画の立て方、展開過程を学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・介護に関する知識、技術を統合して介護過程を展開できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
16　利用者の特性に応じた介護過程の実践的応用Ⅱ（２）
17　自立に向けた介護過程の実践的展開Ⅰ（１）
18　自立に向けた介護過程の実践的展開Ⅰ（２）
19　自立に向けた介護過程の実践的展開Ⅱ（１）
20　自立に向けた介護過程の実践的展開Ⅱ（２）
21　個別ケアとチームアプローチの理解（１）
22　個別ケアとチームアプローチの理解（２）
23　介護過程とサービス担当者会議（１）
24　介護過程とサービス担当者会議（２）
25　ケアプランについて「介護過程とケアプラン」（１）
26　ケアプランについて「介護過程とケアプラン」（２）
27　ケアプランの利用者の自立援助（１）
28　ケアプランの利用者の自立援助（２）
29　まとめの発表（１）
30　まとめの発表（２）

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座９「介護過程」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、受講態度、レポート提出等を総合的に勘案する（60点以上で合格）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅳ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 近藤　博行

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	２年後期	必修

[授業の目的・ねらい]
様々な科目で学んだ知識、技術を統合した介護過程の理解を深める。
[授業全体の内容の概要]
介護過程を学ぶ最終段階として模擬介護過程を展開し、協働的問題解決を中心に実践的思考の習得を目指す。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
介護に関する知識、技術を統合して介護過程を展開し発表できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　オリエンテーション
2　介護過程実践への取り組み
3　介護研究の意義と目的
4　介護研究の進め方
5　ケーススタディに向けて～テーマを決める
6　ケーススタディの構成要素
7　論文を書く（１）
8　論文を書く（２）
9　論文を書く（３）
10　論文を書く（４）
11　発表に向けた準備（１）
12　発表に向けた準備（２）
13　発表に向けた準備（３）
14　介護研究（ケーススタディ）発表会（１）
15　介護研究（ケーススタディ）発表会（２）

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座９「介護過程」（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・最新介護福祉士養成講座１０「介護総合演習・介護実習」（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	・出席状況、受講態度、レポート提出、発表態度等を総合的に勘案する（60点以上で合格）

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅰ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 近藤　博行

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	１年前期	必修

[授業の目的・ねらい]

・介護実践に必要な知識と技術の統合を行う学習とする。

・介護観を形成し、専門職としての態度を養うとともに、介護実践の科学的探究を行う学習とする。

[授業全体の内容の概要]

・介護総合演習の意義、目的を理解し、実習に関する基礎知識を学ぶ。

・実習の振り返りをする。

・介護実践の研究を行う。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・実習について興味・関心を持ち、実習先の施設や利用者を理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

ｺﾏ数

1　オリエンテーション、介護総合演習と介護実習の関係について
2　介護実習の全体像の理解、介護実習Ⅰ－１の概要について
3　介護実習Ⅰ－１では何を学ぶのか
4　個人票、自己目標の記入
5　事前訪問および記録物について
6　実習施設の概要と利用者像の理解
7　実習直前の指導（実習の心得について）
8　実習中の指導（１）（実習初日を終えて）
9　実習中の指導（２）
10　実習中の指導（３）
11　実習後の指導（１）
12　実習後の指導（２）
13　実習の振り返り（１）
14　実習の振り返り（２）
15　まとめ（次の実習に向けて）

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１０「介護総合演習・介護実習」（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・既習科目テキストすべて	出席状況、レポート提出等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅱ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 杉山　昌克

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	１年後期	必修

[授業の目的・ねらい]

・介護実践に必要な知識と技術の統合を行う学習とする。

・介護観を形成し、専門職としての態度を養うとともに、介護実践の科学的探究を行う学習とする。

[授業全体の内容の概要]

・介護総合演習の意義、目的を理解し、実習に関する基礎知識を学ぶ。

・実習の振り返りをする。

・介護実践の研究を行う。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・実習について興味・関心を持ち、実習先の施設や利用者を理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

ｺﾏ数

1　オリエンテーション、介護実習Ⅰ－１の振り返り
2　介護実習Ⅰ－２の目標および概要の理解
3　アセスメントについて（１）
4　アセスメントについて（２）
5　カンファレンスについて（１）
6　カンファレンスについて（２）
7　個人票、自己目標の作成
8　記録物について（１）
9　記録物について（２）
10　事前訪問について
11　実習の心得について
12　実習直前の指導
13　帰校日の指導
14　実習後の指導
15　まとめ

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１０「介護総合演習・介護実習」（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・既習科目テキストすべて	出席状況、レポート提出等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅲ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 杉山昌克　上村育代

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	２年前期	必修

[授業の目的・ねらい]

・介護実践に必要な知識と技術の統合を行う学習とする。

・介護観を形成し、専門職としての態度を養うとともに、介護実践の科学的探究を行う学習とする。

[授業全体の内容の概要]

・介護総合演習の意義、目的を理解し、実習に関する基礎知識を学ぶ。

・実習の振り返りをする。

・介護実践の研究を行う。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・利用者一人ひとりの尊厳や自立を考えて、利用者の思い（ニーズ）を理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

ｺﾏ数

1　実習Ⅰ―３の目標および概要の理解
2　実習Ⅰ―３の個人票、自己目標の作成
3　実習Ⅰ―４の目標及び概要の理解
4　実習Ⅰ―４の個人票、自己目標の作成
5　事前訪問について
6　実習Ⅰ―３実習直前の指導
7　実習Ⅰ―４実習直前の指導
8　帰校日の指導Ⅰ（１）
9　帰校日の指導Ⅰ（２）
10　帰校日の指導Ⅱ（１）
11　帰校日の指導Ⅱ（２）
12　帰校日の指導Ⅲ（１）
13　帰校日の指導Ⅲ（２）
14　実習Ⅰ―３実習後の指導、まとめ（１）
15　実習Ⅰ―３実習後の指導、まとめ（２）

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１０　「介護総合演習・介護実習」（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・既習科目テキストすべて	出席状況、レポート提出等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護総合演習Ⅳ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 杉山　昌克　上村育代

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	２年後期	必修

[授業の目的・ねらい]

・介護実践に必要な知識と技術の統合を行う学習とする。

・介護観を形成し、専門職としての態度を養うとともに、介護実践の科学的探究を行う学習とする。

[授業全体の内容の概要]

・介護総合演習の意義、目的を理解し、実習に関する基礎知識を学ぶ。

・実習の振り返りをする。

・介護実践の研究を行う。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・利用者一人ひとりを理解し、介護過程（作成・修正・評価）を実施する。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

ｺﾏ数

1　オリエンテーション、介護実習Ⅰ―３の振り返り
2　実習Ⅱの目標および概要の理解
3　実習Ⅱの個人票、自己目標の作成
4　実習Ⅰ―４実習後の指導、まとめ（１）
5　実習Ⅰ―４実習後の指導、まとめ（２）
6　事前訪問について
7　実習直前の指導
8　帰校日の指導Ⅰ（１）
9　帰校日の指導Ⅰ（２）
10　帰校日の指導Ⅱ（１）
11　帰校日の指導Ⅱ（２）
12　帰校日の指導Ⅲ（１）
13　帰校日の指導Ⅲ（２）
14　実習Ⅱ実習後の指導、まとめ（１）
15　実習Ⅱ実習後の指導、まとめ（２）

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１０「介護総合演習・介護実習」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・既習科目テキストすべて	出席状況、レポート提出等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護実習Ⅰ－１	授業の種類 実習	授業担当者 近藤　博行

授業の回数	時間数(単位数) ３６時間（１）	配当学年・時期 １年前期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
・地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。
[授業全体の内容の概要]
・利用者の生活の場である多様な介護現場において利用者理解や多様な介護サービス、多職種協働の実践、地域における生活支援の実践について学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・様々な生活の場における利用者を理解し、介護福祉士の役割を説明できる。

[授業の内容・授業方法]
授業の内容
利用者の暮らしや住まい等の日常生活の理解や多様な介護サービスの理解をする。また、施設職員は利用者の生活を支援するために職種に応じた様々な役割を担っていることを学ぶ。

・個々の生活リズムや個性を理解する。
・様々な生活の場においての個別ケアを理解する。
・利用者、家族とのコミュニケーションを実践する。
・介護技術の確認をする。
・多職種協働や関係機関との連携を学ぶ。
・チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１０「介護総合演習・介護実習」（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・既習科目テキストすべて	出席状況、記録提出状況等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護実習Ⅰ－２	授業の種類 実習	授業担当者 杉山　昌克

授業の回数	時間数(単位数) ８０時間（２）	配当学年・時期 １年後期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
・地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。
[授業全体の内容の概要]
・利用者の生活の場である多様な介護現場において利用者理解や多様な介護サービス、多職種協働の実践、地域における生活支援の実践について学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・様々な生活の場における利用者を理解し、介護福祉士の役割を説明できる。

[授業の内容・授業方法]
授業の内容
利用者の暮らしや住まい等の日常生活の理解や多様な介護サービスの理解をする。また、施設職員は利用者の生活を支援するために職種に応じた様々な役割を担っていることを学ぶ。

・個々の生活リズムや個性を理解する。
・様々な生活の場においての個別ケアを理解する。
・利用者、家族とのコミュニケーションを実践する。
・介護技術の確認をする。
・多職種協働や関係機関との連携を学ぶ。
・チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１０「介護総合演習・介護実習」（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・既習科目テキストすべて	出席状況、記録提出状況等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護実習Ⅰ―３	授業の種類 実習	授業担当者 上村　育代

授業の回数	時間数(単位数) １７４時間（４）	配当学年・時期 ２年前期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
・本人の望む生活の実現に向けて、多職種と協同の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。
[授業全体の内容の概要]
・介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程の実践的展開について学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・利用者のニーズに沿った利用者ごとの生活課題を見つけることができる。

[授業の内容・授業方法]
授業の内容
介護福祉がいろいろな人の生活の営みと人間の関係のつながりの中で存在していることを理解する。介護過程を通して自らの介護福祉士観を整理し、介護福祉の今後のあり方について自己の考えをまとめる。

・個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解する。
・利用者のニーズに沿った利用者ごとの生活課題を見つける。
・他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１０「介護総合演習・介護実習」（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・既習科目テキストすべて	出席状況、記録提出状況等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護実習Ⅰ－３	授業の種類 実習	授業担当者 上村　育代

授業の回数	時間数(単位数) １７４時間（４）	配当学年・時期 ２年前期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
・地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする。
[授業全体の内容の概要]
・利用者の生活の場である多様な介護現場において利用者理解や多様な介護サービス、多職種協働の実践、地域における生活支援の実践について学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・様々な生活の場における利用者を理解し、介護福祉士の役割を説明できる。

[授業の内容・授業方法]
授業の内容
利用者の暮らしや住まい等の日常生活の理解や多様な介護サービスの理解をする。また、施設職員は利用者の生活を支援するために職種に応じた様々な役割を担っていることを学ぶ。

・個々の生活リズムや個性を理解する。
・様々な生活の場においての個別ケアを理解する。
・利用者、家族とのコミュニケーションを実践する。
・介護技術の確認をする。
・多職種協働や関係機関との連携を学ぶ。
・チームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１０「介護総合演習・介護実習」（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・既習科目テキストすべて	出席状況、記録提出状況等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 介護実習Ⅱ	授業の種類 実習	授業担当者 杉山　昌克

授業の回数	時間数(単位数) １６０時間（４）	配当学年・時期 ２年後期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
・本人の望む生活の実現に向けて、多職種と協同の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。
[授業全体の内容の概要]
・介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程の実践的展開について学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・利用者中心の介護過程を展開し、具体的な介護サービス提供の基本となる実践力を身につける。

[授業の内容・授業方法]
授業の内容
　介護福祉がいろいろな人の生活の営みと人間の関係のつながりの中で存在していることを理解する。介護過程を通して自らの介護福祉士観を整理し、介護福祉の今後のあり方について自己の考えをまとめる。

・個別ケアを行うために、個々の生活リズムや個性を理解する
・利用者のニーズに沿った利用者ごとの介護計画の作成、実施、実施後の評価、計画の修正といった一連の介護過程を展開する。
・他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１０「介護総合　演習・介護実習」（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・既習科目テキストすべて	出席状況、記録提出状況等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解Ⅰ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 石井　弘恵

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	１年前期	必修

[授業の目的・ねらい]
・人間の生涯にわたる成長と発達を学習し、老年期の発達課題や疾患について理解する。
[授業全体の内容の概要]
・人間の成長と発達の基礎的理解、老年期の定義及び各期のライフサイクルの特徴と発達課題、老化に伴うこころとからだの変化と生活について学習する。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・人間が生涯にわたって発達する存在であることを理解し、老年期の発達課題と心身の変化について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　人間の成長と発達（１）成長・発達とは
2　人間の成長と発達（２）成長・発達に影響する要因
3　人間の発達と発達課題（１）発達理論
4　人間の発達と発達課題（２）発達段階と発達課題
5　人間の発達と発達課題（３）身体的機能の成長と発達
6　人間の発達と発達課題（４）心理的機能の発達
7　人間の発達と発達課題（５）社会的機能の発達
8　老年期の基礎的理解（１）老年期の定義、老化とは
9　老年期の基礎的理解（２）老年期の発達課題①
10　老年期の基礎的理解（３）老年期の発達課題②
11　老年期の心身の変化と生活（１）老化にともなう身体的な変化の特徴
12　老年期の心身の変化と生活（２）老化にともなう身体的な変化と生活への影響
13　老年期の心身の変化と生活（３）老化にともなう心理的な変化と生活への影響
14　老年期の心身の変化と生活（４）老化にともなう社会的な変化と生活への影響
15　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１２「発達と老化の理解」（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護福祉用語事典（医学評論社）	出席状況、課題ﾚﾎﾟｰﾄ、筆記試験等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解Ⅱ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 北山　周 杉山　昌克

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	１年後期	必修

[授業の目的・ねらい]
・人間の生涯にわたる成長と発達を学習し、老年期の発達課題や疾患について理解する。
[授業全体の内容の概要]
・老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や、高齢者に多くみられる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を学習する。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・高齢者に多い疾患やさまざまな症状が日常生活へどのように影響するのか理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　高齢者の健康
2　高齢者の症状・疾患の特徴
3　高齢者に多い症状・疾患（１）感覚器系
4　高齢者に多い症状・疾患（２）歯・口腔の疾患
5　高齢者に多い症状・疾患（３）精神疾患、感染症
6　高齢者に多い症状・疾患（４）脳・神経系
7　高齢者に多い症状・疾患（５）循環器系
8　高齢者に多い症状・疾患（６）呼吸器系
9　高齢者に多い症状・疾患（７）消化器系、悪性新生物（がん）
10　高齢者に多い症状・疾患（８）内分泌・代謝系
11　高齢者に多い症状・疾患（９）骨・関節疾患
12　高齢者に多い症状・疾患（10）皮膚の疾患
13　高齢者に多い症状・疾患（11）腎・泌尿器系
14　まとめと試験（１）
15　まとめと試験（２）

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１２「発達と老化の理解」　（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護福祉用語事典（医学評論社）	出席状況、課題ﾚﾎﾟｰﾄ、筆記試験等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅰ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 近藤　博行

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	１年後期	必修

[授業の目的・ねらい]

・医学的側面からみた認知症について学び、認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得する。

[授業全体の内容の概要]

・認知症を取り巻く状況からはじめ、認知症の原因となる疾病及び心身の変化や症状について学習し、認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解を深める。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・高齢社会における認知症の状況が説明できる。
・認知症（若年性認知症含む）による障害および原因となる主な病気の症状、検査や治療についての医学的知識を理解する。
・認知症の危険因子や予防について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

ｺﾏ数

1　オリエンテーション、認知症の基礎的理解
2　認知症の人を取り巻く状況
3　認知症ケアの理念と視点
4　中核症状の理解
5　生活障害の理解
6　ＢＰＳＤの理解
7　医学的側面からみた認知症（１）脳のしくみ
8　医学的側面からみた認知症（２）認知症と間違われやすい状態
9　医学的側面からみた認知症（３）認知症の原因疾患①
10　医学的側面からみた認知症（４）認知症の原因疾患②
11　医学的側面からみた認知症（５）認知症の原因疾患③
12　医学的側面からみた認知症（６）若年性認知症
13　認知症の診断と重症度
14　認知症の治療薬と予防
15　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１３「認知症の理解」（第3版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、課題、筆記試験　等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅱ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 杉山　昌克 上村　育代

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	２年前期	必修

[授業の目的・ねらい]
・認知症に伴う生活への影響と認知症ケアについて理解を深め、認知症の人とその家族の生活を支援するケアを学ぶ。
[授業全体の内容の概要]
・認知症ケアの実際や、認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制、認知症の人を支える家族の課題・支援について学び、認知症ケアの実践につながる内容とする。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・認知症の特性をふまえた、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　認知症の人の特徴的な心理・行動
2　認知症に伴う機能の変化と日常生活への影響
3　認知症の人とのコミュニケーション
4　認知症の人のケア(1)食事のケア
5　認知症の人のケア(2)排泄のケア
6　認知症の人のケア(3)入浴・清潔保持のケア
7　認知症の人のケア(4)活動・生きがい・睡眠のケア
8　認知症の人のケア(5)ＢＰＳＤへのケア
9　認知症の人へのさまざまなアプローチ
10　家族への支援(1)家族の心理過程と葛藤
11　家族への支援(2)家族のレスパイト
12　認知症の人の地域生活支援(1)成年後見制度、日常生活自立支援事業
13　認知症の人の地域生活支援(2)地域包括支援センター、新オレンジプラン
14　多職種連携と協働
15　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１３ 「認知症の理解」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	出席状況、課題、筆記試験　等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅰ	授業の種類 講義	授業担当者 上村　育代

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	１年後期	必修

[授業の目的・ねらい]
・障害の概念や理念、障害の原因疾患や症状、特性など基礎的知識を学習する。
[授業全体の内容の概要]
・障害の基礎的理解、障害の医学的・心理的側面の基礎的理解、障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・障害に関する概念および理念を含め、病気や事故による障害の概要について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　障害の基礎的理解（１）障害の概念
2　障害の基礎的理解（２）障害者福祉の基本理念①障害の捉え方，ICIDH・ICF
3　障害の基礎的理解（３）障害者福祉の基本理念②ﾉｰﾏﾗｲｾﾞｰｼｮﾝ，ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ
4　障害の医学的・心理的側面の理解（１）身体障害①身体障害の概論，視覚障害
5　障害の医学的・心理的側面の理解（２）身体障害②聴覚障害，言語障害
6　障害の医学的・心理的側面の理解（３）身体障害③肢体不自由（運動機能障害）
7　障害の医学的・心理的側面の理解（４）身体障害④内部障害
8　障害の医学的･心理的側面の理解（５）リハビリテーションの実際（理学療法士）
9　障害の医学的･心理的側面の理解（６）リハビリテーションの実際（言語聴覚士）
10　障害の医学的･心理的側面の理解（７）リハビリテーションの実際（作業療法士）
11　障害の医学的・心理的側面の理解（８）精神障害
12　障害の医学的・心理的側面の理解（９）高次脳機能障害
13　障害の医学的・心理的側面の理解（１０）知的障害，発達障害
14　障害の医学的・心理的側面の理解（１１）重症心身障害，難病
15　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１４「障害の理解」（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護福祉用語事典（医学評論社）	出席状況、課題レポート、筆記試験等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅱ	授業の種類 講義	授業担当者 鎌田　博幸

授業の回数 １５回	時間数(単位数) ３０時間（２）	配当学年・時期 ２年前期	必修・選択 必修

[授業の目的・ねらい]
・障害による心理および生活への影響と本人・家族の支援について取り巻く環境を含め学習する。
[授業全体の内容の概要]
・障害のある人の心理、日常生活への影響、地域との連携と協働、家族への支援、障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・障害のある人の生活支援について必要な知識と視点及び多職種連携について説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数
1　主要３障害の再理解
2　障害福祉サービスの概要
3　障害のある人の心理
4　障害者介護の視点
5　家族への支援(１)
6　家族への支援(２)
7　連携と協働(１)
8　連携と協働(２)
9　身体障害のある人の心理(１)主に身体障害者が利用する施設訪問を通して心理を理解する①
10　身体障害のある人の心理(２)主に身体障害者が利用する施設訪問を通して心理を理解する②
11　知的障害のある人の心理(１)主に知的障害者が利用する施設訪問を通して心理を理解する①
12　知的障害のある人の心理(２)主に知的障害者が利用する施設訪問を通して心理を理解する②
13　障害のある人の支援のまとめ
14　障害者支援にあたる人のメンタルヘルスに役立つ技術を学ぶ
15　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１４「障害の理解」（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護福祉用語事典（医学評論社）	出席状況、課題レポート、筆記試験等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅠ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 杉山　昌克

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	１年前期	必修

[授業の目的・ねらい]
・こころのしくみを知り、利用者の個別性を踏まえて行う介護の基礎的知識を学ぶ。
[授業全体の内容の概要]
・人間の欲求の基本的理解、自己概念と尊厳、こころのしくみの基礎
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・こころとからだは相互に影響し合い意欲や行動などに影響を及ぼすことが説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
1　人間の欲求の基本的理解（１）基本的欲求
2　人間の欲求の基本的理解（２）社会的欲求
3　自己概念と人間の尊厳（１）自己概念に影響する要因
4　自己概念と人間の尊厳（２）自立への意欲と自己概念
5　自己概念と人間の尊厳（３）自己実現といきがい
6　こころのしくみの理解（１）「こころ」とは何か
7　こころのしくみの理解（２）脳のしくみ
8　こころのしくみの理解（３）認知のしくみ
9　こころのしくみの理解（４）学習・記憶のしくみ
10　こころのしくみの理解（５）思考のしくみ
11　こころのしくみの理解（６）感情・情動のしくみ
12　こころのしくみの理解（７）意欲・動機づけのしくみ
13　こころのしくみの理解（８）適応のしくみ①
14　こころのしくみの理解（９）適応のしくみ②
15　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１１「こころとからだのしくみ」（第2版）（介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護用語事典（医学評論社）	出席状況、課題レポート、筆記試験

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅡ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 伊藤　めぐみ 杉山　昌克

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４）	１年通年	必修

[授業の目的・ねらい]
・介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人体の構造や機能について学び、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。

[授業全体の内容の概要]
・介護の実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間のからだの基本的なメカニズムを学習する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・人体のしくみ・移動・食事・身じたく・清潔保持・排泄・睡眠に関する基本的なメカニズムと観察のポイントを説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

ｺﾏ数

1　からだのしくみの理解(1)からだのしくみと身体各部の名称
2　からだのしくみの理解(2)脳・神経
3　からだのしくみの理解(3)内臓の名称、呼吸器
4　からだのしくみの理解(4)循環器
5　からだのしくみの理解(5)骨・関節のはたらき
6　からだのしくみの理解(6)筋肉の動き
7　からだのしくみの理解(7)生殖器・内分泌、恒常性のしくみ
8　からだのしくみの理解(8)血液・体液・リンパ、バイタルサイン
9　移動に関連したこころとからだのしくみ(1)移動に関連したしくみ、観察のポイント
10　移動に関連したこころとからだのしくみ(2)安全安楽な移動・姿勢・体位保持
11　移動に関連したこころとからだのしくみ(3)機能低下が移動に及ぼす影響
12　食事に関連したこころとからだのしくみ(1)口腔のしくみ
13　食事に関連したこころとからだのしくみ(2)消化器のしくみ、摂食と嚥下
14　食事に関連したこころとからだのしくみ(3)機能低下が食事に及ぼす影響
15　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１１ 「こころとからだのしくみ」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護用語事典（医学評論社）	出席状況、課題、筆記試験 等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅡ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 伊藤　めぐみ 杉山　昌克

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３０回	６０時間（４）	１年通年	必修

[授業の目的・ねらい]
・介護を必要とする人の生活支援を行うため、介護実践の根拠となる人体の構造や機能について学び、心身の機能及び関連する障害や疾病の基礎的な知識を身につける。

[授業全体の内容の概要]
・介護の実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間のからだの基本的なメカニズムを学習する。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・人体のしくみ・移動・食事・身じたく・清潔保持・排泄・睡眠に関する基本的なメカニズムと観察のポイントを説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

ｺﾏ数
16　身じたくに関連したこころとからだのしくみ(1)身じたくの意味、爪・毛髪の構造と機能
17　身じたくに関連したこころとからだのしくみ(2)口腔の構造と機能、保清の意義
18　入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ(1)清潔保持の生理的意味
19　入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ(2)皮膚のしくみ、発汗について
20　入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ(3)機能低下が及ぼす影響、皮膚疾患
21　入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ(4)入浴の効果、観察のポイント
22　排泄に関連したこころとからだのしくみ(1)排泄の生理的意味
23　排泄に関連したこころとからだのしくみ(2)排尿のメカニズム、尿の性状
24　排泄に関連したこころとからだのしくみ(3)排便のメカニズム、便の性状
25　排泄に関連したこころとからだのしくみ(4)機能低下が及ぼす排泄への影響
26　排泄に関連したこころとからだのしくみ(5)生活場面における尿・便の変化
27　睡眠に関連したこころとからだのしくみ(1)睡眠のしくみ、ホルモンとの関係
28　睡眠に関連したこころとからだのしくみ(2)睡眠と生活リズム
29　睡眠に関連したこころとからだのしくみ(3)高齢者と睡眠、睡眠障害の原因と対応
30　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１１ 「こころとからだのしくみ」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護用語事典 （医学評論社）	出席状況、課題、筆記試験　等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） こころとからだのしくみⅢ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 石井　弘恵

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０時間（２）	２年前期	必修

[授業の目的・ねらい]

・ターミナル期にある対象および家族の理解と基礎的知識の学びを通じて、ターミナルケアに必要な援助の在り方について考える力をつける。

[授業全体の内容の概要]

・人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみについて学び、その支援について事例を通して理解を深める。

・ターミナルケアにかかわる介護職としての態度と多職種連携を理解し、自らの生死観を養う。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・ターミナル期にある対象や家族の心理プロセスを説明できる。

・ターミナル期にある対象のトータルペインと緩和ケアの基本を説明できる。

・看取りにおける介護職の役割を説明できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

ｺﾏ数

1　死のとらえ方(1)人間の死のとらえ方
2　死のとらえ方(2)尊厳死、安楽死
3　死のとらえ方(3)終末期（ターミナル期）
4　死のとらえ方(4)ターミナルケアのポイント
5　死に対するこころの理解(1)死に対する考え方（死生観）
6　死に対するこころの理解(2)死に対する恐怖・不安
7　死に対するこころの理解(3)死を受容する段階
8　死に対するこころの理解(4)終末期における家族への支援①
9　死に対するこころの理解(5)終末期における家族への支援②
10　終末期から危篤時の身体機能の特徴
11　死後のからだの変化
12　臨終期のケア
13　終末期から危篤時に行われる医療の実際（呼吸困難時、疼痛緩和など）
14　終末期における介護の役割と多職種連携
15　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１１ 「こころとからだのしくみ」 （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護用語事典（医学評論社）	出席状況、課題レポート、筆記試験

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケアⅠ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 杉山　昌克 石井　弘恵

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３６回	７２時間（４）	２年通年	必須

[授業の目的・ねらい]
・医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるように、必要な知識・技術を修得する。

[授業全体の内容の概要]
・医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。①医療的ケア実施の基礎②喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）③経管栄養（基礎的知識・実施手順）④演習

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術が修得できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

ｺﾏ数

1　医療的ケア実施の基礎(1)医療的ケア・医行為とは
2　医療的ケア実施の基礎(2)喀痰吸引等制度と背景
3　医療的ケア実施の基礎(3)清潔保持と感染予防①
4　医療的ケア実施の基礎(4)清潔保持と感染予防②
5　医療的ケア実施の基礎(5)安全な療養生活：救急蘇生①
6　医療的ケア実施の基礎(6)安全な療養生活：救急蘇生②
7　医療的ケア実施の基礎(7)安全な療養生活：救急蘇生③
8　医療的ケア実施の基礎(8)健康状態の把握①急変時の対応
9　医療的ケア実施の基礎(9)健康状態の把握②身体・精神の健康，バイタルサイン
10　呼吸のしくみとはたらき
11　喀痰吸引とは
12　人工呼吸器と吸引
13　子どもの吸引について
14　吸引を受ける利用者や家族の気持ちと対応（説明と同意），呼吸器系の感染と予防
15　喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認，急変・事故発生時の対応と事前対策
16　喀痰吸引の手順(1)
17　喀痰吸引の手順(2)
18　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１５ 「医療的ケア」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護福祉用語事典（医学評論社）	出席状況、課題、筆記試験　等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケアⅠ	授業の種類 講義・演習	授業担当者 杉山　昌克 石井　弘恵

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
３６回	７２時間（４）	２年通年	必須

[授業の目的･ねらい]
･医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全･適切に実施できるように、必要な知識･技術を修得する。
[授業全体の内容の概要]
･医療的ケアを安全･適切に実施するために必要な知識･技術を習得する。
①医療的ケア実施の基礎 ②喀痰吸引(基礎的知識･実施手順)
③経管栄養(基礎的知識･実施手順) ④演習
[授業修了時の達成課題(到達目標)]
･医療的ケアを安全･適切に実施できるよう、必要な知識･技術が修得できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数
19　喀痰吸引の実施の手順と留意点(1)
20　喀痰吸引の実施の手順と留意点(2)
21　高齢者及び障害児・者の喀痰吸引　実施手順(1)演習①
22　高齢者及び障害児・者の喀痰吸引　実施手順(2)演習②
23　高齢者及び障害児・者の喀痰吸引　実施手順(3)演習③
24　高齢者及び障害児・者の喀痰吸引　実施手順(4)演習④
25　消化器系のしくみとはたらき，消化・吸収とよくある消化器の症状
26　経管栄養とは，注入する栄養剤に関する知識
27　経管栄養実施上の留意点
28　子どもの経管栄養について
29　経管栄養に関係する感染と予防，経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意
30　経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認，急変・事故発生時の対応と事前対策
31　経管栄養の必要物品，経管栄養の技術と留意点
32　高齢者及び障害児・者の経管栄養　実施手順(1)演習①
33　高齢者及び障害児・者の経管栄養　実施手順(2)演習②
34　高齢者及び障害児・者の経管栄養　実施手順(3)演習③
35　高齢者及び障害児・者の経管栄養　実施手順(4)演習④
36　まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１５ 「医療的ケア」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規） ・イラストで見る介護福祉用語事典（医学評論社）	出席状況、課題、筆記試験　等

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケアⅡ	授業の種類 演習	授業担当者 杉山　昌克 石井　弘恵

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
２６回	５２時間（３）	２年後期	必修

[授業の目的・ねらい]
・医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。

[授業全体の内容の概要]
・医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。
① 医療的ケア実施の基礎　②喀痰吸引（基礎的知識・実施手順）
③経管栄養（基礎的知識・実施手順）　④演習

[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・シミュレーターを用いて、喀痰吸引・経管栄養が、ひとりで安全・適切に実施できる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数

1	喀痰吸引　演習①	14	経管栄養　演習③
2	喀痰吸引　演習②	15	経管栄養　演習④
3	喀痰吸引　演習③	16	経管栄養　演習⑤
4	喀痰吸引　演習④	17	経管栄養　演習⑥
5	喀痰吸引　演習⑤	18	経管栄養　演習⑦
6	喀痰吸引　演習⑥	19	経管栄養　演習⑧
7	喀痰吸引　演習⑦	20	経管栄養　演習⑨
8	喀痰吸引　演習⑧	21	経管栄養　演習⑩
9	喀痰吸引　演習⑨	22	経管栄養　演習⑪
10	喀痰吸引　演習⑩	23	経管栄養　演習⑫
11	喀痰吸引　演習⑪	24	経管栄養　演習⑬
12	経管栄養　演習①	25	経管栄養　演習⑭
13	経管栄養　演習②	26	経管栄養　演習⑮

※演習では、１項目につき１人５回以上の実施とする。

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・最新介護福祉士養成講座１５ 「医療的ケア」（第2版） （介護福祉士養成講座編集委員会編、中央法規）	所定の評価基準にて実技試験を実施

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 福祉文化活動 茶道	授業の種類 演習	授業担当者 梶原　純子

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
６０回	１２０時間（８）	全学年通年	選択必修

[授業の目的・ねらい]
・日常生活に安心、潤いと安らぎ、豊かさなどをもたらす生活の質としての文化を学び、その人らしい生活を支援する素養を養う。
・また、人に対する優しさやコミュニケーション、支えあい活動を学習する。
[授業全体の内容の概要]
・「茶の湯」を通じてもてなしの心を理解し、利用者とのグループ活動を学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・日本の生活文化としての「茶の湯」の理解を通して利用者へ生活支援ができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数

1	日本総合文化　茶道ともてなしの心	16	もてなしの心
2	立居振舞マナー	17	薄茶点前（風炉）
3	茶道における基本的な動作　道	18	たっぷく祭（文化祭）への準備　道・学
4	割り稽古　道	19	茶道の歴史
5	基本的な動作　道・学	20	薄茶点前（風炉）
6	割り稽古　道・学	21	茶道の焼物　道・学
7	基本的な動作　道・学	22	薄茶点前（風炉）　道・学
8	抹茶茶碗づくり	23	茶道の掛軸　道・学
9	抹茶茶碗づくり	24、25、26	茶庭の名称と茶室までの基本動作 茶事
10	盆略点前　道・学		
11	盆略点前　道・学		
12	薄茶点前（風炉）　道・学	27	薄茶点前（炉）　道・学
13	薄茶点前（風炉）　道・学	28	薄茶点前（炉）　道・学
14	薄茶点前（風炉）　道・学	29	薄茶点前（炉）　道・学
15	和敬静寂と介護　道・学	30	和敬静寂と介護

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
・教本　学校茶道初級編 千 宗室監修 禅語による「道」を学ぶ	出席状況、授業態度、レポート

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 福祉文化活動 クラフトバンド手芸	授業の種類 演習	授業担当者 北原　初代 山本　明美

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
６０回	１２０時間（８）	全学年通年	選択必修

［授業の目的・ねらい］
・日常生活に潤いと安らぎ、豊かさなどをもたらす生活の質としての文化を学び、その人らしい生活を支援する素養を養う。
・人に対する優しさやコミュニケーション、支えあい活動を学習する。

［授業全体の内容と概要］
・クラフトバンド手芸の基礎や技法を学び、作品を通しものづくりの楽しさを学ぶ。

［授業終了時の達成課題（到達目標）］
・ものづくりの楽しさ、人に対する優しさ、心の豊かさをもって支援する心を育む。

［授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法］
コマ数

1	パンかご	16	あじろかご
2	パンかご	17	あじろかご
3	パンかご	18	あじろかご
4	トートバッグ	19	あじろかご
5	トートバッグ	20	あじろかご
6	トートバッグ	21	あじろかご
7	トートバッグ	22	あじろかご
8	トートバッグ	23	創作作品
9	円のくずかご	24	創作作品
10	円のくずかご	25	創作作品
11	円のくずかご	26	創作作品
12	円のくずかご	27	創作作品
13	円のくずかご	28	創作作品
14	円のくずかご	29	創作作品
15	円のくずかご	30	創作作品

［使用テキスト・参考文献］	［履修認定の方法及び基準］
必要に応じ配布予定	出席状況、作品評価

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 福祉文化活動 陶芸	授業の種類 演習	授業担当者 荒川　泰宏

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
６０回	１２０時間（８）	全学年通年	選択必修

[授業の目的・ねらい]
・日常生活に安心、潤いと安らぎ、豊かさなどをもたらす生活の質としての文化を学び、その人らしい生活を支援する素養を養う。
・また、人に対する優しさやコミュニケーション、支えあい活動を学習する。
[授業全体の内容の概要]
・陶器づくりの基礎と実践、陶器の文化を学び、対象者へのグループ活動について学ぶ。
[授業修了時の達成課題（到達目標）]
・陶器の製作と焼成技術を修得し陶器文化を通して利用者へ生活支援ができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
ｺﾏ数

1	陶器づくりの基本	16	電動ロクロ実習
2	手びねりの基本（湯呑）	17	小皿製作の実習
3	手びねりの製作	18	小皿製作の実習
4	片口製作の実習	19	中鉢製作の実習
5	片口製作の実習	20	中鉢製作の実習
6	取手の付いた器製作	21	中皿製作の実習
7	取手の付いた器製作	22	中皿製作の実習
8	型皿製作	23	袋物（壺等）製作
9	手びねり小物製作（動物等）	24	袋物（壺等）製作
10	小鉢製作の実習	25	花器（一輪差し等）製作
11	小鉢製作の実習	26	花器（一輪差し等）製作
12	注ぐ器（しょうゆ差し等）製作	27	絵付実習
13	注ぐ器（しょうゆ差し等）製作	28	絵付釉掛け実習
14	釉掛け	29	釉掛け窯詰め本焼実習
15	釉掛け窯詰め	30	田原市博物館見学

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
必要に応じ配布予定	出席状況、作品の提出、審査

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 福祉文化活動 書道	授業の種類 演習	授業担当者 前田　和宏

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
６０回	１２０時間（８）	全学年通年	選択必修

[授業の目的･ねらい]
･古来から｢書は人なり｣と云われ、文字は｢その人の人柄や教養を表す｣ともいわれている。筆を持っことで心豊かな時間を過ごすことにより、日本の伝統文化の心を学ぶ。
[授業全体の内容の概要]
･さまざまな書の美に触れながら、AIとは異なるコミュニケーションツールとして、毛筆の表現、技法を学ぶことにより、自己表現や創造力を磨く。
[授業終了時の達成課題(到達目標)]
･書に親しむことにより、言葉の重要性や文字表現の大切さを身に付ける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]
コマ数

1	書くための準備・基本点画	16	作品制作　その６
2	まず書いてみよう	17	作品制作　その７
3	楷書・行書　その１	18	学園祭に向けて　その1
4	楷書・行書　その２	19	学園祭に向けて　その2
5	楷書・草書　その１	20	学園祭に向けて　その3
6	楷書・草書　その２	21	学園祭に向けて　その4
7	作品制作　その１	22	学園祭に向けて　その5
8	作品制作　その２	23	学園祭に向けて　その6
9	楷書・行書　その３	24	細字　その1
10	楷書・行書　その４	25	細字　その2
11	楷書・草書　その３	26	作品制作　その８
12	楷書・草書　その４	27	作品制作　その９
13	作品制作　その３	28	作品制作　その１０
14	作品制作　その４	29	作品制作　その１１
15	作品制作　その５	30	生活の書

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準] 出席状況･授業態度･提出作品

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名） 福祉文化活動 音楽療法	授業の種類 演習	授業担当者 池田　信子

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
６０回	１２０時間（８）	全学年通年	選択必修

[授業の目的・ねらい]

・日常生活に安心、潤いと安らぎ、豊かさなどをもたらす生活の質としての文化を学び、その人らしい生活を支援する素養を養う。

・また、人に対する優しさやコミュニケーション、支えあい活動を可能にする人材の育成。

[授業全体の内容の概要]

・音楽療法を主とした芸術療法の基礎を学び、実践を通し、福祉現場における音楽などの様々な療法の活用法や利用者への支援について学ぶ。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

・音楽療法を主とした芸術療法の理論と実践を通して利用者を深く理解し、実践場で活用できるスキルを身につける。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

ｺﾏ数

1	講義内容の説明	16	模擬セッション１
2	様々な療法概論	17	模擬セッション２
3	高齢者の疾患の理解とその対処法	18	模擬セッション３
4	高齢者に対する音楽療法技法	19	模擬セッション４
5	懐かしの歌を覚えよう(童謡,唱歌)	20	学外セッション１
6	知的障害の理解とその対処法	21	学外セッション２
7	発達障害の理解とその対処法	22	学外セッション３
8	精神疾患とその対処法	23	学外セッション４
9	障害児者への音楽療法技法Ⅰ	24	学外セッション５
10	乳幼児への音楽療法	25	学外セッション６
11	音楽が脳に及ぼす影響（視聴）	26	学外セッション７
12	模擬セッション	27	学外セッション８
13	模擬セッション	28	学外セッション９
14	学外セッション	29	学外セッション10
15	学外セッション	30	成果発表会

[使用テキスト・参考文献]	[履修認定の方法及び基準]
必要に応じ配布予定	出席状況、授業、学外セッション参加状況

発行・編集／田原福祉グローバル専門学校

〒441-3421
愛知県田原市田原町中小路 11 番地 1
TEL　0531-22-3939
FAX　0531-22-7340
Email　info@tgcw.jp
HP　https://www.tgcw.jp